

# 平成17年度 个性的教育を推進する 地区・校への助成を受けて

倉敷市立福田南中学校  
教諭 西 幸代

このたびは福武教育振興財団より大きな助成をいただき、倉敷市立福田南中学校は、学区の小・中学校・養護学校また地域企業・地域の方たちと協力しながら「地域における障害者のインクルージョン教育の推進」に取り組んでおります。

応募のきっかけとなったのは、ベネッセコーポレーション創業50周年を記念したベネッセスクエアでの「教育へのヴィジョン展」の中で語られていた、東京大学の市川伸一先生のメッセージで



「ぶれジョブ」のファイルをみんなで見ている様子

「末端を意識した教育」というキーワードが私たち福田南中学校での実践の裏づけになりました。「経済性・効率性」という末端のみを追求した場合どうなるか。J.R.西日本の事故・耐震強度偽装等の社会問題をはじめ、子どもたちを取り巻く環境にもこの状況は多く見られます。そこで「経済性・効率性」の対極に在る障害のある子どもたちを意図的に学校や地域社会の中に位置づけようというのが私たちの実践です。教師は障害児とのかかわりのなかに「人間的で教育的」なものが多くあることを体験的に知っています。それを「ぶれジョブ」(障害児の通年の職場体験)というかたちで、地域社会の自然な風景にして、もう一つの末端をみんなが意識していく教育効果をねらっています。

私たちは自分で自分の存在価値を高めることができました。地域や家族の連帯を生んだ「貧しさ」と創意工夫を生んだ「不便さ」の時代が去ったあと、「子どもたちが人の役に立ててうれしい」と思えるしくみを教育の中で意図してつくりなければならぬ時代がきました。「地域で、すべての子どもたちを貢献できる存在にしていこう」しかけづくりをするのがこの个性的教育を推

進する地区・校の取り組みです。「ぶれジョブ」「障害者スポーツ・アート」「学校での教育プログラム」の3つの柱で進めています。福武理事長のことはある「魅力ある地方の集合体」の一地方をめざし、私どもは中学校区で実践を積み上げてまいりますので、引き続きご支援をよろしくお願いたします。

## 福武文化振興財団 文化活動助成 (平成18年2月1日~3月31日) 平成18年度 助成の募集について

福武文化振興財団は、岡山県内の文化活動・調査研究を助成し、岡山県の文化の発展に寄与することを目的としております。対象は岡山県内で文化活動・調査研究を行っている個人・団体。(ただし、単なる趣味や同好のグループは対象となりません。)助成額 1件の上限: 30万円 応募方法 市町村教育委員会等に配布した所定の申請書 (HP からダウンロードすることも可能) に記入し、3月31日必着で財団事務局あてに郵送。詳細は募集要項、当財団のHPを参照。問い合わせ 福武文化振興財団 まで

### 第24回教育・文化講演会のご案内

- 演 題 「芸術創造の心について」
- 講 師 日本芸術院会員・岡山大学名誉教授 蛭田二郎先生
- 日 時 平成18年1月24日(火) 14時~15時30分
- 場 所 岡山プラザホテル
- 参加費 無料
- 申込方法 お電話・ハガキまたはFAXでお申し込みください。ハガキ・FAXの場合はお名前(ふりがな)・住所・電話番号・FAX番号・参加人数をご記入のうえ、財団事務局までお申し込みください。

福武文化振興財団 H P アドレス  
<http://www.fukutake.or.jp/>

## 編集後記

◆11月に開催された教育講演会で、森川先生がルソーの著書「エミール」の中で「人間は二回生まれる。一度目は誕生(存在)したとき、二度目は生きるとき。」という文章を紹介されました。「生きる」という言葉には主体的で力強いものを感じます。

◆教育研究発表会では、国際理解・英語教育についての発表に多くの方が参加されました。海外の教育の現状について関心が高いようです。

◆財団の新年最初の事業は、1月24日開催の蛭田二郎先生の講演会です。日本を代表する彫刻家の蛭田先生のお話を通して、芸術に触れていただきたいと思っております。



(下山)

# 不易

## 第23回教育講演会・第18回教育研究発表会

福武教育振興財団は、11月19日、「おかやま教育の日」の協賛事業として、教育講演会と教育研究発表会を開催いたしました。

### 「生きる力と学力形成—教育の復権を求めて—」

講師 岡山大学教育学部長 森川直先生

教育講演会は、岡山大学教育学部長の森川直先生を講師に迎え、「生きる力と学力形成—教育の復権を求めて—」という演題でご講演をいただきました。先生は、今日の日本の教育状況をどうとらえるかということ、近年の状況を振り返りながら、教育の概念と教師に求められる力についてお話しになりました。概要は次のようでした。

「戦後教育は、国民への教育の機会均等が行われたが、その反面、受験競争、いじめ、登校拒否等の問題が増え、そのときから教育の概念についてさまざまな論議が交わされるようになってきている。そして最近では、ゆとり教育の弊害として、学力低下論争が



教育講演会



教育研究発表会 (第2分科会)

第23号  
平成18年1月17日  
(財)福武教育振興財団  
(財)福武文化振興財団  
〒700-0807  
岡山市南方3-7-17  
TEL.086-221-5254  
FAX.086-232-3190  
<http://www.fukutake.or.jp/>  
制作 (株)吉備人

### 第18回教育研究発表会プログラム

- 第1分科会.....池田 清美 (岡山大学教育学部附属小学校 社会科研究室)  
森 弥生 (岡山の美術館活用研究協議会)  
辰田 芳雄 (岡山県立岡山朝日高等学校)
- 第2分科会.....福富 泰代 (岡山県立岡山聾学校幼稚部)  
中原 修二 (ものづくりと教育の会)  
佐野 淳之 (鳥取大学農学部FSC 教育研究林「森山の森」)
- 第3分科会.....鳥越 巖之 (Team e-village)  
影山 知美・美若 利充 (津山市情報教育研究会)  
佐々木弘記 (岡山県教育用コンテンツ活用推進委員会)
- 第4分科会.....森元 純一 (ふるさと教員連絡協議会)  
鳥居 恭治 (岡山県国際理解教育研究会)  
藤原 陽子・横田 貴弘・平田 丞二・山部 英之 (岡山県海外教育文化研究会)

繰り返されていく。こうした中で教育概念の吟味が必要となるが、その主体が子どもたちであることは大前提である。変化の激しい時代の中で、子どもたちがその時代に生きて行くには、自ら考え、判断し、行動していく、つまり自らを律する力を身につけられるようにしていくことが必要である。また、学力については、何を学ぶのか、その対象と内容となる教材やカリキュラムが重要となる。教師は教材を通して教える立場の主体となり、子どもたちは学ぶ主体となる。そして、子どもたちに学習の意欲を持たせるには、その学習の意味を教えなければならぬ。教材提供をしながら、「学ぶ意味への導き」をすることが、教師のやるべきことではない

だろうか。教育とは、つまり人間教育であり、そのためには生きる力を身につけさせていくことが必要である。」

参加者からは、「現在の教育改革の根底にあるものを知ることができた。」「教えるとは

どういうことかが分かった。」といった感想をいただきました。講演会に引き続き「教育研究発表会」が開催されました。発表会は分科会形式で行われ、第1分科会「教科」、第2分科会「道徳・特別活動等」、第3分科会「IT・情報教育」、第4分科会「国際理解・郷土学習・小学校英語活動」の4つの領域に分かれて開催され、発表は、平成16年度に福武教育振興財団から教育研究助成等を受けられた個人・グループの中から12組の方が、1年間の実践の成果、今後の課題・抱負等を発表されました。

なお、このたびの教育講演会および教育研究発表会を催すに当たり、ご協力いただきました岡山県教育振興会(共同主催)をはじめ、岡山県教育工学研究協議会、岡山県海外教育文化研究会、岡山県国際理解教育研究会(以上共催)、ならびに岡山県教育センター、岡山県情報教育センターの関係の方々へ厚くお礼申し上げます。

(下山)

第15回海外教育事情調査を終えて

シンチャオ! (こんにちは) ベトナムの子どもたち



岡山市教育委員会 参事 角田 みどり

第15回目となる本年の海外教育事情調査団は、国際化・情報化社会の構築に向けて新しい教育を推進している中国(広州)とベトナム(ハノイ)の教育事情について、特に外国語教育とIT教育に焦点を当て調査して来た。ベトナムは、不幸な戦争の終結後30年が経過した現在、「ドイモイ(市場経済システム)の導入」...



ペープサートを使った英語の授業

政策が、市民生活にも浸透している様子がうかがえる。ハノイでは、ベトナム教育省、ベトナム外務省経済情報センター、ハノイ大学、キャット・リン小学校、チューヴァンアン中・高等学校を視察し、調査研究を行った。英語教育を導入しているキャット・リン小学校では四年生の英語学習を参観したが、ピンク色のアオザイ姿(正装)の若い先生が、ペープサートで児童の興味・関心を引き出しながら、楽しい授業を展開していた。日本の小学校での英語活動と大きく異なる点は「英文字」の使用であり、どの児童もノートにも印刷字か見紛うほどの美しい筆記体が書かれていた。ベトナムで小一から英語教育が進められていくのは、英語が準公用語であるという背景がある。

平成17年度文化活動助成を受けて

「10年目の感謝」

ズンチャチャ 代表 須原 由光

私たちズンチャチャは独自に作品を制作発表しながら活動しているダンスグループです。《誰もが踊れる、誰もが踊りたい》(人の体は興味深く動き、ちよつとしたしぐさから無限の動きを見いだすことができる)というダンスの可能性を広げるために、作品を創りだしています。最近では、これまでの作品に対して評価をいただき、東京、京都などで踊る機会を得ました。大変良い経験であり、成長するための糧となりました。



「こたつみかん」公演のご案内

今回の作品ではタイトルとなっているこたつみかんをキーワードにして、初挑戦となる恋愛をテーマとして絡め、「子どもから大人まで楽しめるダンス」を目指して、単純明快でアイデア満載のズンチャチャダンスの世界を創りだします。企画・制作・映像すべてにおいてメンバー各自が携わり、オリジナリティあふれる舞台空間ができあがります。

福武文化振興財団の助成により、10年前無名だった私たちが、このような公演を行うことができるとなりました。感謝の気持ちを込めて、公演を成功させたいと思います。

霜が降り始めた十二月初めのことである。一年生の児童が登校中に用水路に落ちてずぶ濡れでしかも泥だらけで泣きながら登校してきた。「どうしたの? 何をしたの?」と次々に校門では質問が続いた。その中で、迎えた担任は、「寒いねえ。怖かったねえ。」と児童を抱き寄せながら語りかけた。児童は、大きな泣き声と共に担任に抱きついていった。この光景をかいま見て、児童

元を開発したり、授業展開を工夫したりして実践した。実践して思うような結果が出ない時、「児童の質が低い。」と考えてしまったことがよくある。これは、授業の成果というものを、授業者サイドの都合のみでみる自己中心的なとらえであったと反省している。授業で勝負できる教師でありたいが、授業とは子どももあつてのものであり子どもの実態を熟考したうえでの授業がしたいものである。

相手や周囲の人の立場からも考えることのできる子どもを育てることこそ大切にしたい。三学期には、校長室の廊下に、金子みすゞの次の詩を掲げようと考えている。積もった雪 上の雪 さむかろな。 つめたい月がさしていて。 下の雪 重もかろな。 何百人ものせていて。 中の雪 さみしかろな。 空も地べたもみえないで。

随想

「教師としての愛」の発揮

岡山県小学校長会

会長 岡崎 明宏



の心に寄り添った教師の姿を嬉しく感じた。かつて、東北大学元総長西澤潤一氏が講演の中で、「学力をつけること、これは教師としての愛ですよ。」とさりりと言われ、共感した。以来、教師としての愛について考えるようになった。この愛を発揮することで教育活動の本質に迫れるように感じている。

最近、児童虐待や虐殺という悲惨な事件が頻発している。子どもたちの世界においても「いじめ」は継続して発生している。些細なことから暴力沙汰になったり、陰湿ないじめになったりという事例も多い。これらの背景として共通することは、身勝手な自己中心的な思いが存在していることは間違いないことだろう。教師として、子どもたちに学力をつけることと同様に、まずは、自分中心の見方だけでなく

冒頭に示したような子どもたちの心に寄り添える教師でありたい。子どもたちの学ぼうとする意欲、みんなと共に安全に楽しく過ごしたいという意識に沿いながらこれらを一層高めることが自然にできる教師、すなわち、教師としての愛を自然に発揮できる教師でありたいと願っている。(福武教育振興財団 評議員)

平成16年度文化関係助成対象者による第8回文化発表会

福武文化振興財団は、平成17年9月16日、「第8回文化発表会」を岡山プラザホテルで行いました。

昨年度文化関係助成を受けた70件の助成対象者のうち、19件の個人・団体が、1年間の成果を参加者約160名に披露いたしました。

ステージ発表では、「NPO法人ばそこんハウス」による障害者に舌や目の動きでパソコンを操作する技術・指導についての活動報告や、「近代岡山国際交流史研究会」による近代岡山に来県・居住した外国人の活動実績や調査研究の報告等をはじめ、7件の個人・団体が活動・調査について発表しました。また、展示発表では、12件の個人・団体がさまざまな工夫を凝らし、日頃の成果を写真やパ

ネル、作品等で出展しました。展示会場で行われる懇談会では展示物についての説明やステージ発表についての感想など、発表者と参加者が互いに情報交換をしながら、日頃の苦労や成果について語り合いました。(野間



赤田晃一さん(中央)とメンバーによる即興演奏の発表【サクソ(中央)・ディジュリドゥ(左)・テルミン(右)】



展示発表

- ステージ発表
1 NPO法人ばそこんハウス
2 財団法人日米文化協会
3 山の学校ピオトーブ倶楽部
4 倉敷CMT音楽療法研究会
5 朗読塾
6 近代岡山国際交流史研究会
7 赤田 晃一
■展示発表
1 かわら版発行所:のんのん堂
2 澤座 博志
3 掘家住宅の利用を考える会
4 アジアの子どもに「絵本を贈る会」
5 いちばんぼし童話の会
6 岡山アーリーダンスクラブ
7 岡山の自然を守る会
8 拡大写本の会 ホワイトリボン
9 NPO法人AMD(A)
10 NPO法人子ども劇場岡山県センター
11 『燃』出版会
12 よしもと正人